

サツマイモ基腐病対策のポイント④

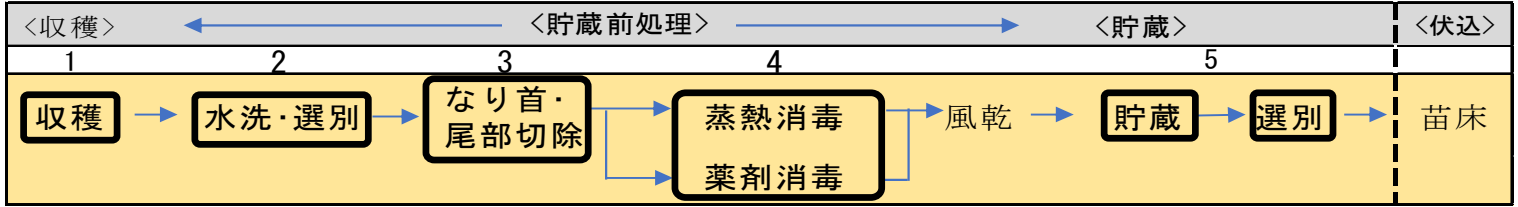
<健全種いもの確保に向けて>

農産園芸課サツマイモ基腐病対策班



令和7年産の被害軽減に向けて、健全な種いものを準備しましょう！

基腐病等による種いもの腐敗を防ぐための作業工程図



1 収穫(健全種いもの確保)

種いものは、茎葉、株元に病気の発生が見られないほ場「種いも専用ほ場」から採取しましょう(図1)。



図1 基腐病の病徴が無い株から種いもを採取する

2 水洗・選別

種いもの表皮を傷つけないよう丁寧に洗い流し、表皮の変色や異常が見られる種いもを除去しましょう(図2)。

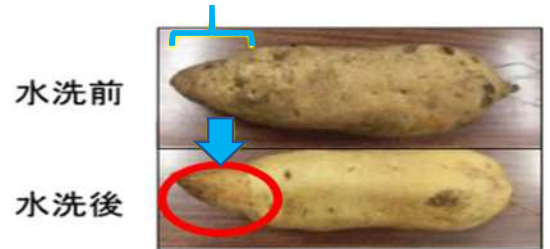


図2 基腐病の病徴の見え方の違い

3 なり首・尾部切除

- なり首は基腐病、尾部は乾腐病等の貯蔵病害が出やすいため、切除しましょう(図3)。
- 使用したハサミ等はこまめに消毒しましょう。
- ※ 消毒は火炎滅菌又は丁寧な洗浄と拭き取りを行う。

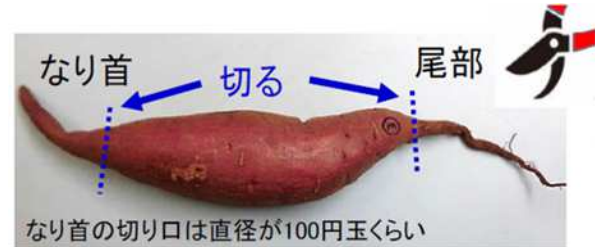


図3 なり首・尾部の切除方法

4 種いも消毒(種いも消毒は貯蔵前に行う)

(1) 蒸熱消毒(原則、9~11月の暖かい時期に行う)

蒸熱消毒直後は、表皮が柔らかく傷つきやすいので、以下に注意しましょう。

- ① 種いもの表皮を傷つけないよう、丁寧に取り扱う。
- ② 低温(10℃以下)にさらさず風通しの良い場所で十分に風乾する。
- ③ 蒸熱消毒をしてすぐに伏せ込みを行わない。

(2) 薬剤消毒

トップジンM水和剤200倍液に30分間浸漬しましょう。黒斑病の防除にもなります。

※10℃以下の低温にさらさず風乾させ、表皮が乾いたことを必ず確認してから貯蔵(下記参照)しましょう。

5 貯蔵・選別

- 温度(13~15℃)と湿度(85~95%)を確保できる定温貯蔵庫で保管しましょう。

※コガネセンガンは、貯蔵性が悪いため14℃~15℃とする。

- 貯蔵中に腐敗した種いもは取り除き、周囲の健全種いもへの伝染を防止しましょう。

ご不明な点がございましたら、お近くのサツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム(事務局:地域振興局・支庁農政普及課)にご連絡ください。

※本資料は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業(01020C)」「戦略的スマート農業技術等の開発・改良(SA2-102N)」の成果を活用しました。